

11月の野菜

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	13,213	95	12,606	52	135	74	25	0.2	千葉産は作付減、神奈川産は天候不順により生育遅れ気味であるが、現在は好天が続いており遅れも回復に向かっている。11月上旬は高値反動と関東産の増量に伴い弱含みの展開となり、下旬にも下げ気配強まる見込み。総入荷量は豊作の前年を下回り、価格は基調安の前年を上回るが平年並みの見込み。
はくさい	11,919	85	13,000	33	212	54	13	0.1	茨城産は台風による冠水被害、定植遅れ、天候不良により生育が1週間ほど遅れており、小玉の仕上がりが予想される。11月下旬には量が出そろってくるが、総入荷量は少なかつた前年をさらに下回り、価格は前年安値の2倍で、平年よりも高い見込み。
ほうれんそう	1,610	前年並み	1,611	426	101	457	2	0.1	群馬、茨城、千葉、埼玉産中心。各産地朝晩の気温は低いが、日中は好天に恵まれ生育は概ね順調。株の太りもまずまず。11月出しの播種作業も予定通りに進み、集荷量は前年並みの見込み。価格は前年とほぼ変わらず、平年より若干安い程度。月通じて安定した相場展開が見込まれる。
ねぎ	5,672	前年並み	5,833	211	114	251	355	6.3	青森、新潟、茨城、秋田、埼玉、群馬など。現状東北産は7割ほど出荷が進んでいる。終盤の東北産地は11月は減りながらの推移となるが、総じて太りもよく、生育順調。関東産地は遅れ気味だが、天候回復で遅れを取り戻しつつある。総入荷量は前年並み、価格は前年より高いが、平年よりもやや安い。10月下旬は東北産の出荷ペースが回復し、関東産秋冬作も出始め下げ基調になるが、11月中旬から北海道、東北産が終了するので下げ止まる見込み。
きゅうり	4,547	110	4,681	394	102	390	27	0.6	埼玉、群馬、宮崎、千葉、高知産中心の入荷となる。関東産抑制物は作柄不良で切りあがりが早まるが量的には前年を上回る。関東産、西南暖地産の越冬物は平年作で中旬以降から順次ピークを迎える。総入荷量は前年を上回り、価格は前年、平年をやや上回る見込み。11月上旬は抑制物と越冬物の端境期で品薄高の動きとなるが、中旬以降は越冬物が出そろい落ち着いた販売状況が予想される。
トマト	5,647	前年を下回る	4,948	343	111	451	21	0.4	熊本、愛知、千葉産中心の入荷となる。各産地とも朝晩の気温低下による遅れから回復しつつある。11月出荷の段は花付、着果状況とも問題ないが、予想入荷量は潤沢入荷した前年を下回り前年並み。高値反動により11月は荷動き鈍く、価格は基調安の前年比高だが、平年をしたまわる。